

津田左右吉物語

第26回

左右吉をとりまく人々

(もりおと
森於菟教授)

尾関公見氏が津田博士米寿祝賀会(昭和35年)に出席した時のみやげ話の中に、森於菟教授(東邦医学科大 学名誉教授、解剖学者、随筆家)についての話題がありました。

森教授は、左右吉の獨協中学時代の教え子であり、文豪鷗外の長男です。彼の著書には、『解剖台によりて』『父鷗外』『獨協時代の津田先生』などがあります。



▶ 千葉中学校時代の左右吉。右前列2人目



『獨協時代の津田先生』という回想記に「獨協での私の数多い恩師の中最も強い感銘を受けたのは津田先生で、近眼鏡を光らせた小柄の背広姿、出席簿をかかえ白墨一本つまんだまま教室に入り手控えなど何一つ見ることなく、絶えず教壇の上を往復しながら授業の初めから終わりまでしゃべり続ける。時々生徒に質問の矢を放つから油断できない。それにすべて情熱がこもり、少年たちにも凡庸な先生でない事だけは理解された」と述べています。日露戦争当時の左右吉の授業がうかがえる内容となっています。